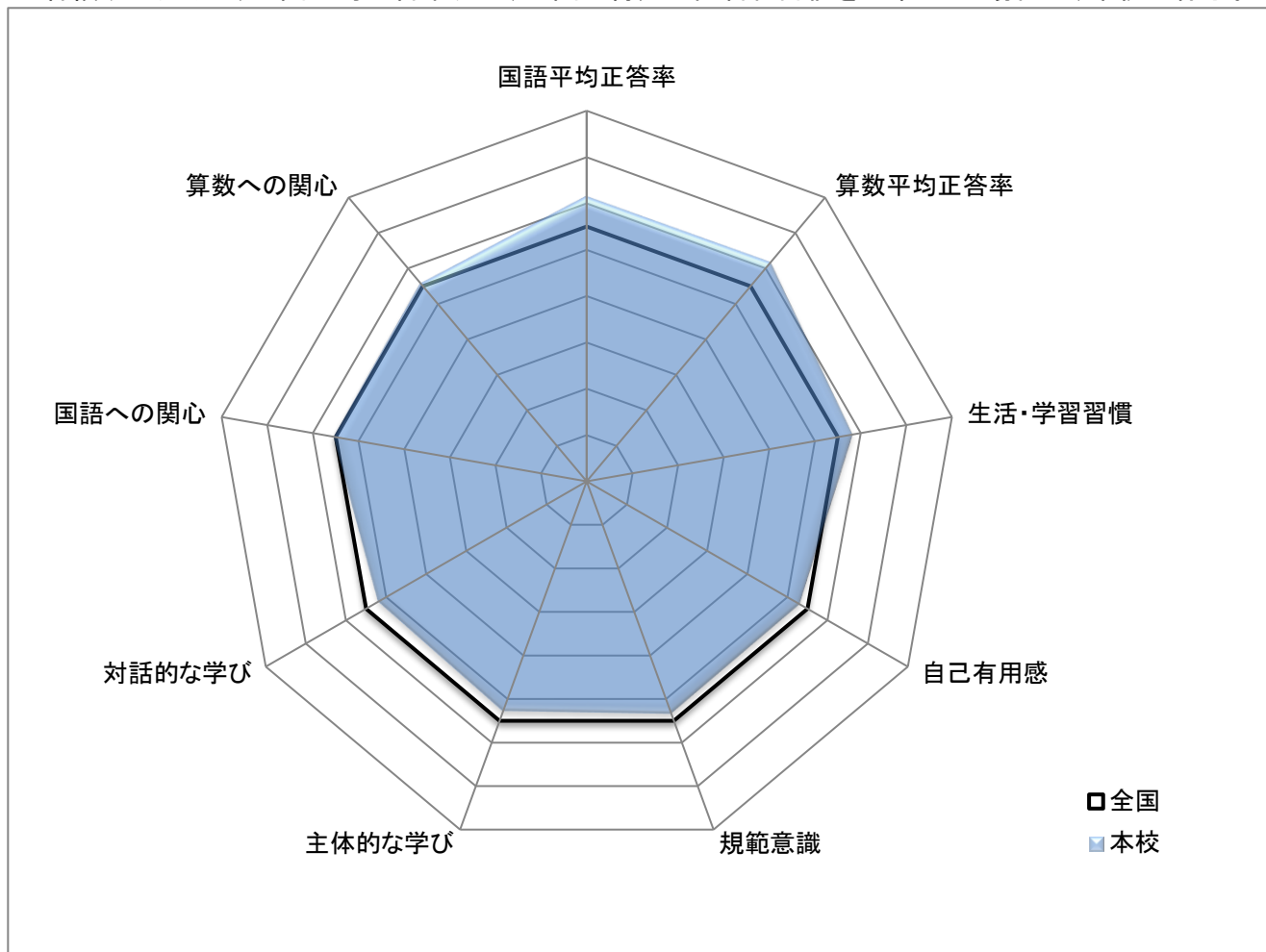


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

**【国語】**  
 ○文章や情報の読解は、正答率が全国平均よりも高く、「C読むこと」が定着していると分かる。また、定着にばらつきはあるものの、5年生までの漢字は概ね定着している。  
 ●自分の考えをまとめたり、伝えるように書き方を工夫したりする問題の正答率が低く、「B書くこと」が苦手としている児童が多い。

**【算数】**  
 ○5年生で苦戦した割合や比例も全国平均より正答率が高く、四則計算も約8割の児童は定着している。  
 ●正多角形の意味や性質の理解に関する問題の正答率が低く、「B図形」の定着が不十分であると分かる。

《授業改善のポイント》

**【国語】**  
 「書くこと」の力を付けるために文章や話の要点を短くまとめるために余分な情報を削ぎ落としてできるだけ簡潔にまとめることをあらゆる教科において意識して取り入れていく。また、単元の最後には、自分の考えを必ず書き、それを友達と見合う時間も設けていく。

**【算数】**  
 「図形」の定着が不十分という課題を意識し、「拡大図や縮図」では、作図のみならず、拡大図や縮図の意味や性質を理解させる。また、「円の面積」では、公式を覚えるだけでなく、公式ができるまでのプロセスも理解させたい。さらに、さまざまな問題に対応できるような力を付けるために、応用問題に挑戦させていく。

《チャートの特徴》

○「国語や算数への関心」は全国平均とほぼ差はないが、「平均正答率」で見ると、どちらの教科も約10%全国平均を上回った。併せて、生活・学習習慣も全国平均を上回っていることから、学力向上を図る上での土台はできていることが分かる。

●一方で、「規範意識」は全国平均とほぼ差はないものの、「自己有用感」「主体的な学び」「対話的な学び」においては、全国平均を下回っている。さらなる学力向上を図るには、自己有用感を得ることや主体的に学ぶことが重要であると考えられるため、今後の課題となる。

《家庭・地域への働きかけ》

・保護者会や個人面談、学校公開、学年便り等で、学力調査の結果等を踏まえ、児童の学習状況を伝え、連携を図っていく。

・本校の特色であるほめほめカードを活用し、子どもの良さを価値づけ、自尊感情を高めていく。